

音声学

[講義] 第1学年 前期 必修 2単位

《担当者名》 榊原健一 kis@hoku-iryo-u.ac.jp 柳田早織

【概要】

この科目では、音声の生成の仕組み、特徴、記述の方法を学ぶ。

【学修目標】

<一般目標>

コミュニケーション障害の臨床と研究に必要不可欠な音声学の基礎概念と基本スキルを身に付ける。

<行動目標>

1. ヒトの音声コミュニケーション、発声の概略について説明できる。
2. 発声発語における呼吸器、喉頭、声道などの発声器官の名称と機能について簡潔に説明できる。
3. 音素、単音の概念、国際音声字母 (IPA) の分類基準について説明できる。
4. 日本語の母音、子音の調音を国際音声字母の方法に基づき記述できる。
5. 健常日本語発話、単純な音の置換のある発話について、IPAを用いて簡略音声表記することができ、使用するIPAシンボルの意味が説明できる。
6. 使用するIPAシンボルの示す単音の発声のメカニズムと音響的特徴を説明できる。
7. 音と音が連続して発話されるとき現れる現象を簡単に記述できる。
8. 音素とは何か、及び音声表記と音素表記の違いを説明できる。
9. 音節とモーラの意味と違いを説明できる。
10. 発話の超分節的特徴がどのような情報を伝えるのか説明でき、アクセント、イントネーションのメカニズムを簡単に記述できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーションおよび音声学とは何か；発声発語器官の解剖と生理	1. 授業の目標と全体の流れを把握する。 2. 音声学とはどういう学問領域か説明できる。 3. 解剖学における基本的な用語を述べるができる。 4. 発声における音源フィルタ理論の概要を説明できる。	榊原健一
2	発声発語器官の解剖	1. 喉頭の定義を説明し、枠組みを構成する軟骨の名称、形状を説明できる。 2. 声帯の生理学的構造、声門の内転、外転運動の仕組みを説明できる。	榊原健一
3	発声発語器官の解剖	1. 調音とは何かを説明できる。 2. 調音器官の名称を述べるができる。 3. 調音器官の動くメカニズムについて説明できる。	榊原健一
4	IPA (国際音声記号) と母音の調音	1. 国際音声記号の分類の概要を説明できる。 2. 母音とは何か説明できる。 3. 子音とは何か説明できる。 4. IPAにおける母音分類の方法を母音4角形と関連させて説明できる。 5. IPA母音と属性 (円唇 非円唇、舌の高さ、舌の前後位置) を対応づけることができる。 6. 日本語東京方言の母音の属性を記述でき、これを音声表記できる。	榊原健一
5 6	子音の調音	1. IPAにおける子音分類の方法をIPA子音表 (肺気流音) に基づいて説明できる。 2. 日本語の子音の属性 (調音方法、調音位置、有声無声) を説明できる。	榊原健一
7	副次調音、調音結合	1. 日本語に現れる副次調音のメカニズムについて説明できる。 2. 副次調音とIPA音声記号を対応づけることができる。 3. 日本語に現れる二重長音のメカニズムについて説明できる。	榊原健一

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		4. 二重調音とIPA音声記号を対応づけることができる。 5. 調音結合を説明でき、日本語における具体例を上げることができる。	
8	音素表記と音声表記	1. 音素とは何かを説明できる。 2. 音素表記と音声表記の違いを異音の例を挙げて説明できる。 3. 最小対、条件付異音、相補分布、自由異音について説明できる。	榊原健一
9	音節とモーラ	1. 音節とは何か、モーラとは何かを説明できる。 2. 日本語発話においてモーラの果たしている役割を記述できる。 3. モーラの数え方と音節の数え方の違いを例を挙げて説明できる。	榊原健一
10) 12	日本語の音声	1. 日本語(東京方言)の母音、子音、特殊モーラをIPAを用いて表記できる。 2. 標準的な日本語発話(単語)を聞いてこれらを音声表記できる。 3. 音声表記に用いる音声記号の調音方法、調音位置、有声無声を述べるができる。 4. 無声化について説明できる。	榊原健一
13	超分節的特徴	1. 超分節的特徴、分節的特徴について説明できる。 2. プロソディ(韻律)および音声言語の持つ情報について説明できる。 3. イントネーションについて説明できる。 4. アクセントについて説明できる。 5. 日本語(東京方言)の名詞のアクセント型について説明できる。 6. 動詞、形容詞、形容動詞のアクセントについて説明できる。	榊原健一
14	IPA表記の実践	1. 構音障害のある患者の発話を聴取し、IPAを用いて適切に記述できる。 2. 音の生成メカニズムを参考にして、誤り音を分析できる。	柳田早織
15	実験音声学の方法	主な調音の計測方法についてその特徴を説明できる。	榊原健一

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

形成的評価(授業内で出された課題の実施状況の評価) 30 %

期末試験(筆記試験) 70%

【教科書】

斎藤純夫 著 「日本語音声学入門」第3版 三省堂 2025年

【参考書】

Borden 他 著、廣瀬肇 訳 「新ことばの科学入門 第二版」 医学書院 2008年

今泉敏 「音声学・言語学」第2版 医学書院 2020

Ladefoged, 「音声学概論」大修館書店 1999年

上野善道 編 「朝倉日本語講座 音声・音韻」 朝倉書店 2003年

ゼムリン 著 「言語聴覚学の解剖生理」 医歯薬出版 2007年

【備考】

授業を支援するLMSとしてGoogle Classroomを用いる。Google Classroomでは以下のことをおこなう。

- ・ 授業資料の配信
- ・ 授業各回の理解度チェックおよび質問の受け付け
- ・ 質問に対する回答
- ・ 学生相互の意見交換

・オンデマンド教材の提示

また、各回の授業後に出席確認を兼ねたリアクションペーパー(Google Form) を提出することを義務付ける。

【学修の準備】

授業の予習として、LMSで提示された資料や教科書で事前学修し、事前課題が提示されている場合は実施すること。受講後には、リアクションペーパーを必ず提出し、提示されている場合は、復習課題を実施すること。前半に講義する喉頭の解剖は、解剖学で用いられている資料、参考書も参考にすること。1コマの講義に関し、予習、復習は合わせて160分以上おこなうこと。本学で使用する学修管理システムを用いて資料や動画などの提示、課題提出などの学修管理をおこなう。自己調整学習のためのシート等も欠かすこと無く記入していくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP2) 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している